

# いってきます

映像学科  
高山隆一

## ITTEKIMASU

Department of Imaging Art  
TAKAYAMA Ryuichi

### 制作意図

フィルムによる映画誕生時そのスクリーンサイズはスタンダードサイズ（1.33：1）が主流であり長らくその時代が続くこととなった。その後、ピスタサイズ、シネマスコープと言ったスクリーンサイズの変遷を歩むこととなる。

現在デジタル映像の主流は 16：9 となりさらには携帯電話での映像撮影の普及により縦長比の映像の登場も見られるようになった。また若い世代でのシネマスコープサイズの評価を「映画的」という発言も聞かれるようになる。

従前の映像の主たる媒体としてのフィルムはそのスクリーンサイズは機材のメカニズムの制約により限定されていた。だがデジタル制作の過程の上でそのフレームの決定に自由度が増しさまざまなタイプが存在することが可能になった。（撮影時のカメラ側の設定のみならず編集時による撮影後での決定の自由度）

スクリーンサイズは画面内での構図設計に大きな影響を与えることになる。

本作『いってきます』ではスタンダードサイズに選択した。

その要因としてこのコロナ禍において映画館が閉鎖された状況において頻繁に古典を見直す機会が増えた。その際当時主たるスクリーンサイズであったスタンダードサイズにおける構図の安定性の再認識を知ることとなった。

そして本作が登場人物一名ということもあり複数人数登場の構図のバランスと比して所謂「収まりのいい」サイズとして選択をした。特に人物のバストショットでの印象は周囲の背景が映らない分、印象度が増した感がある。

敢えて若者たちが述べる「映画的」とは真逆のスクリーンサイズ。前述したスクリーンサイズ選択の自由度が増した上で今後作品内容とスクリーンサイズの関係性を再度制作上の重要な一因として想起すべきであろう。

### 物語

突如世界を襲った何らかの変容。そこに取り残されてしまったひとりの主婦、綾瀬舞（30）たったひとりきりの世界での奇妙だがありきたりな日常。その中で彼女はさまざまな想いを巡らせていく。

「いつてきます」採録シナリオ

脚本・監督・・・高山隆一

綾瀬 舞 (30)・・・小山真由

## ○字幕

「夜の最も深い時間に自分に尋ねなさい。

もし書くことを禁じられたら死んでしまうかを。

心を掘り下げ答えを探すのです。私は書くべきか?」

リルケ「若き詩人への手紙」

## ○舞の顔

舞のモノローグ「それならばこの不可思議を歓迎しようじゃないか。ホレイシヨール、この天と地の間には私たちの哲学など及ばぬことが山ほど存在するのだから」

## ○ビル群

アカベラ

「ワンリトル、ツーリトル、スリーリトルインディアン。フォーリトル、ファイブリトル、シックスリトルインディアン。

セブンリトル、エイトリトル、ナインリトルインディアン。

テンリトルインディアンボーイズ。

テンリトル、ナインリトル、エイトリトルインディアン。

セブンリトル、シックスリトル、ファイブリトルインディアン。

フォーリトル、スリーリトル、ツーリトルインディアン。

ワンリトルインディアンボーイ。」

## ○ビルの一角

舞のモノローグ

「10人のインディアンの男の子が食事に出かけた  
ひとりが喉を詰まらせて、9人が残った

9人のインディアンの男の子が夜更かしをした  
ひとりが朝寝坊をして、8人が残った

8人のインディアンの男の子がデザオンを旅した  
ひとりがそこに留まると言って、7人が残った

7人のインディアンの男の子が薪割りをした  
ひとりが真つ二つに割れて、6人が残った

6人のインディアンの男の子が蜂の巣で遊んだ  
ひとりが蜂に刺されて、5人が残った

5人のインディアンの男の子が訴訟を起こした  
ひとりが裁判所に行くことになり、4人が残った

4人のインディアンの男の子が海へ出かけた

ひとりが燗製ニシンに飲み込まれて、3人が残った

3人のインディアンの子が動物園を歩いた  
ひとりが大きな熊に抱きつかれて、2人が残った

2人のインディアンの子が日光浴をした  
ひとりが焼け焦けになって、もう1人が残った

1人のインディアンの子がひとりぼっちになった  
自分で首を吊って、そしてもう誰もいなかった」

☐ 地下広場

☐ 屋上公園

☐ 裏路地 1

☐ 屋外通路

☐ 公園

☐ ビルと裏路地

☐ 公園のブランコ

☐ 公園の藤棚

☐ 裏路地 2

☐ 屋上ピュロテイル

☐ 自転車置き場

☐ 電信柱と電線

☐ 裏路地 3

☐ 工事中の穴

☐ 公園通路

☐ 家・外観

☐ 台所

食器棚。

男性用や子供用の食器が混じっている。

☐ 洗面所

青い歯ブラシ。  
赤い歯ブラシ。  
子供用歯ブラシ。  
子供用の歯磨き粉  
髭剃りの道具。

○居間

多少荒れた室内。  
一角には女の子の幼稚園のバッグや帽子等が掛けてあるスタンド。  
子供用の机。  
投げ出された男性用の背広とネクタイ。  
子供のぬいぐるみ。  
散らかったおもちゃ類。

○玄関前

外に立ち尽くす舞。  
着の身着のまま髪が乱れている。  
口元にはマスク。  
片手には果物ナイフ。  
片手には居間にあった子供のぬいぐるみ。

舞のモノローグ「世界の終末などあつという間にやってきた。  
でもこれがそうなの？  
なんてあつけない。  
世界の終わりは混乱と喧騒ではなく沈黙と静寂。  
大量の殺戮でも屈辱的な服従でもない。  
全てが無に帰すること」

舞のモノローグ「すぐにわかった。  
もう泣きわめく時期はとつくに過ぎていることを」  
周囲が明るくなってくる。  
口元のマスクを外し投げ捨てる。

舞のモノローグ「どうやら世界の孤独を私はたった一人で引き受けることになったようだ」

○居間

テーブルの上の観葉植物を額に入った絵に取り替える舞。  
パウル・クレー『忘れっぽい天使』  
タイトルが浮かび上がってくる。  
タイトル『いつてきます』

舞のモノローグ「これは終わりではなく始まりの物語」

○台所

スイッチをいじる。  
天井の蛍光灯が点いたり消えたりする。

× × × × × ×

蛇口をひねり水が出る。

× × × × × ×



コンロをひねり点火する。

× × × × × ×

コーヒーを飲む舞。

舞のモノローグ「世界を動かしているゼンマイのネジはいつも誰かが巻いてくれているらしい」  
舞「うる星やつら、ビューティフル・ドリーマー」

○居間

ソファで本を読む舞。

膝にはブランケット。

アーサー・C・クラーク『幼年期の終わり』

舞のモノローグ「私は選ばれたの？無視されたの？

託されたの？見放されたの？」

本を顔の上に落とす。

顔を覆う本。

舞のモノローグ「ずるい！なんで私だけが自分で運命を決めなきゃいけないの？」

膝のブランケットを被り繭のように身体を丸める。

○台所

そうめんの麺を濯いでいる舞。

舞のモノローグ「世界がどうなろうと作るのは私かあ」

○居間

そうめんを食べている舞。

舞のモノローグ「冬でもそうめん。冬だからそうめん。そう、決めるのは私だから」

一瞬手を休め物思いに耽るが再びそうめんを食べ続ける。

○庭先

慣れないタバコを吸っている舞。

履いているサンダルをブラブラさせながら弄んでる。

舞のモノローグ「もう少し外の世界を待たせておくことにしよう」

○玄関前

他所行きのハイヒールが置かれている。

○居間

唇にルージュを塗る。

結婚指輪を外す舞。

ペディキュアを足の爪に塗る舞。

○居間

ハイヒールの履き加減を直す舞。

○居間

姿見の鏡の前に立つ舞。

少し露出度の高いワンピースを着ている。  
とても魅力的な容姿。  
ワンピースの丈を少し上げて更に足を露出する。  
モデルのようにポーズを取る。  
舞のモノローグ「よしー褒めてやるぞー自分ー」  
音楽に身を任せるように身体を揺らす。  
恍惚の表情。

○同居間

床に仰向けになって天井を見つめる舞。  
使いかけの化粧品。  
脱ぎ散らかしたいくつかのドレス。

○台所

シンクの中の洗われていない一人分の食器類。

○庭先

吸いかけのタバコ類。

○洗面所

舞の歯ブラシだけが濡れていて他は使った形跡がない。

○玄関

舞のスニーカー。

○居間

整頓された室内。  
テーブルの上には『忘れっぽい天使』の額。

○玄関前

舞、リュックサックを背負っている。  
舞、家に向かって  
舞「いただきます」  
舞、歩き出す。

舞のモノローグ「世界に満たされたのは孤独ではなく孤高。  
そう、これは終わりではなく始まりの物語」

○エンドロール

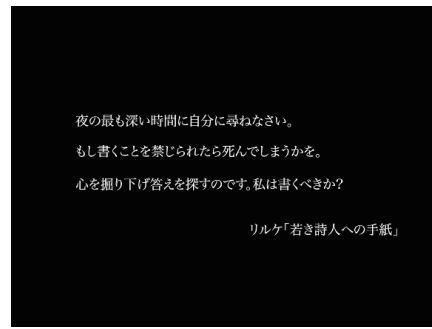
エンドロール終了後、舞のモノローグ。  
黒味  
舞のモノローグ「世界に従うんじゃない。世界に従えるのだ」

(了)

(15分30秒)  
フルHD作品  
ステレオ方式



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10





11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30

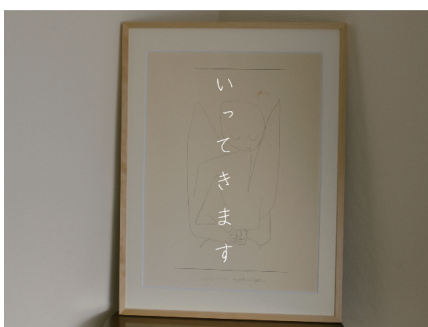




31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



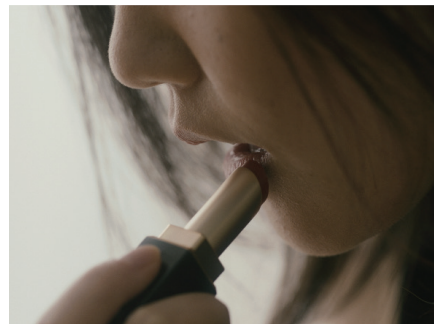
45



46



47



48



49



50

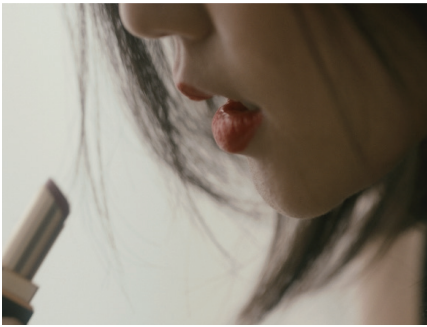




51



52



53



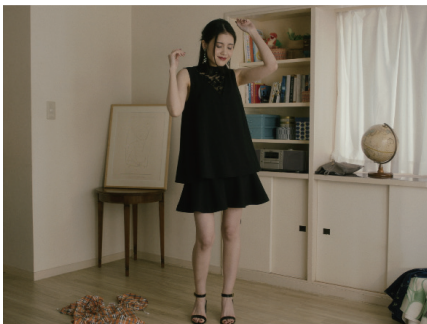
54



55



56



57



58



59



60





61



62



63



64



65



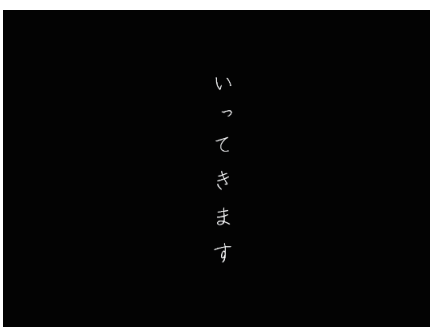
66



67



68



69



70

撮影  
平野礼

照明  
稲葉俊充

録音・音声  
山田均

美術  
古屋ひな子

71

スク립ター  
今野七香

編集  
丹羽真結子

ヘアメイク  
桑本遼彦

衣裳  
栗田珠似

72

監督補  
太田龍馬

制作  
望月龍太

撮影助手  
上野陸生  
福迫寛顕

73

撮影助手  
上野陸生  
福迫寛顕

美術助手  
市村桃子  
小林紗雪

助監督  
中島歩  
渡邊日和

74

助監督  
中島歩  
渡邊日和

制作助手  
竹田彩夏

制作協力  
仙田麻子

75

劇中音楽作曲・ヴィオラ演奏  
角谷奈緒子

劇中ダンス曲作曲・演奏  
新澤美佳

劇中歌唱  
さわひろ子

76

エンディング曲  
「humming」  
詞・曲・歌唱  
さわひろ子

劇中民謡翻訳  
藤井円

劇中画  
『忘れっぽい天使』  
パワル・クレール

77

劇中本  
『幼年期の終わり』  
アーサー・C・クラーク

協力  
日本パワル・クレール協会  
倉田修太郎

78

監督・脚本・製作  
高山隆一

79